

目次

はじめに一別荘から建築やまちが見える 4

Hayama's Old Villas 6

●図版と解説

- 01 旧川手恒三郎別荘—現川手恒忠邸 11
- 02 旧金子堅太郎別荘(恩賜松荘)—現三井高周別荘 16
- 03 旧金子堅太郎分家邸 17
- 04 旧小倉房蔵別荘 25
- 05 旧宮城道雄別荘「雨の念佛荘」—現財団法人宮城道雄記念館所有 31
- 06 旧山口蓬春邸—現山口蓬春記念館 37
- 07 旧斉藤恒三別荘—現畑中俊彦邸 43
- 08 旧玉塚栄次郎別荘—元音羽楼 49
- 09 旧中西儀兵衛別荘—現ブルーミング中西葉山寮 54
- 10 旧中西進別荘—現ブルーミング中西葉山寮 60
- 11 旧S氏別荘 65
- 12 旧最上国蔵別荘 70
- 13 旧井上隆一別荘 76
- 14 旧井上匡四郎別荘—現浅沼勝氏所有 82
- 15 旧伊藤峯雄別荘—現本ふじ 87
- 16 旧長谷部小連邸—現内一寛邸[母屋] 91
- 17 旧長谷部小連邸—現長谷部道彦邸[離れ] 91
- 18 旧松尾臣善別荘—現中央大学葉山寮 99
- 19 旧石山賢吉別荘—現柳本茂邸 103
- 20 旧畠山一清別荘—現茅山荘 108
- 21 旧畠山一清海の別荘 118

葉山と別荘 122

葉山別荘分布図 128

後記/略歴 130

表1: 旧井上隆一別荘 階段踊り場

表4: 旧中西進別荘 玄関

p.2: 旧畠山一清海の別荘

これを見ると、和室が一つも無い完璧な洋館である。現在は居間が拡張され和室が1室増築されているが、当初の姿とほとんど変わっていない。意匠は英国のスタイルをそっくり真似ているが、寸法は尺寸でやっている。東京代々木にあった本宅も英国スタイルの洋館と和館であったという。戦後、別荘は進駐軍に接収される。その後、昭和45年頃から10年ほど恒徳氏夫妻は葉山で暮らしている。

通常の葉山の別荘では建物は道から見えないように、敷地の周囲、特に道に面しては築地塀や生垣、竹垣を廻らしている。しかし、旧齊藤別荘は道路沿いには白いペンキが塗られた低い木板の柵があるだけで、芝生の庭の奥に正面を向いた建物が丸見えである。入り口からは建物のほぼ中央にある玄関までまっすぐに庭を突っ切っていく。この構図からして日本的ではない。明らかに英国的である

建物はL字形の間取りをしたほぼ総2階建てである。日本の家は戦前までは平屋か一部2階建てが普通であり、総2階建てというのも洋風である。屋根は間取りに合わせてL字形に交差しており、何処からも妻入り(屋根の形がみえる方向)の屋根と平入り(屋根の長手方向)の屋根が組み合わさって見える。しかも茶褐色の洋瓦に急勾配の屋根である。その急勾配の屋根を押し上げるようにして2階の窓が開き、暖炉の煙突が外壁から屋根を突き抜けて伸びている。更に庭に面してはヴェランダやボウ・ウィンドウが設けられている。これだけふんだんに洋館のデザイン要素が使われては、何処から見ても日本人がイメージする洋館そのものである。

玄関のドアは外開きで靴も脱いであがるようになっていて、これはさすがに日本式である。洋式では玄関ドアは内開きであるが、玄関ドアの外開きと履き替え、それに浴槽に入る風呂だけは他がすべて洋風になった今の住宅でも変わらない。玄関からホールへと続いているが、玄関とホールの仕切りや階段の手摺を兼ねた仕切りは縦の直線を強調し、ところどころにそれらをつなぐように横線を配したモダンなデザインで構成されている。

ホールの左のリビングルームに入ると正面に暖炉が置かれ、部屋の南側にはヴェランダに出る両開きの開口部と大きな二つの窓が開いている。田舎家風に太い根太を見せた天井や面取りされた太い柱、梁、ほおずえ、込み栓やドアのデザインに当時イギリスに起こったアーツ・アンド・クラフト運動のデザインの影響が感じられる。

角型円形のボウ・ウィンドウや
天井の化粧梁など
エキゾチックな雰囲気食堂

